

e) 中心気圧が 929mb 以下に発達した台風の、月別発生状況は次のとおりである。

表2 929mb 以下に発達した台風の月別分布

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
台風の発生数	2	・	2	7	7	14	8	8	3	51

発生数は7月から11月までの期間が多く、中でも9月が最も多い。また特に10月・11月の秋深くなっても非常に強い台風が多いということは、海上に対する気象通報の問題とも関れんして重要なことと思われる。

f) 10~12月の間、中心気圧が 929mb 以下に発達する台風は19コとなっているが、10°N から南の海域で、カロリン諸島からマーシャル諸島にかけては、このうち9コやく50%を算し、興味ある資料を提供している。前項にもあるとおり、秋から初冬にかけて、低緯度に発生する台風が、異常に発達するものが多いことは、海上警報にとって重要なことを示しており、特に10月以降は、低緯度方面に出漁する漁船が、かって台風のため遭難し、あるいは影響を受けたことが多いだけに、注意を要する事項と思われる。

文 献

- 1) 伊藤 博 (1961): 台風の発達・衰弱に関する二・三の統計. 研究時報, **13**, 614~620.
- 2) H. Riehl (1948): On the Formation of Typhoons. J. Met., **5**, 247~264.
- 3) M. Yanai (1961): A Detailed Analysis of Typhoon Formation. 気象集誌, 2nd Ser., **39**, 187~214.
- 4) T. Otani (1953): Converging Line of the Northeast Trade Wind and Converging Belt of the Tropical Air Current. Geophys. Mag., **25**, 1~122.
- 5) C.E. Deppermann (1938): Typhoons Originating in the China Sea. Manila Weather Bureau.
- 6) 田辺三郎 (1961): 1960年8月の台風について. 天気, **8**, 372~381.
- 7) 田辺三郎 (1963): 1962年の台風発生期の低緯度解析. 研究時報, **15**, 405~418.
- 8) B.I. Miller (1958): On the Maximum Intensity of Hurricanes. J. Met., **15**, 184~195.
- 9) C.J. Wiederanders (1961): Analyses of Monthly Mean Resultant Winds for Standard Pressure Levels over the Pacific. Hawaii Inst. Geophys. Rep., No. 13.

日本における大気開発計画 (2)

窪 田 正 八

4月21日(金) 本計画に対する予算措置を求める対政府報告案 学術会議春季総会通過

前回の修正案との相異点「参加機関名の削除」の趣旨は、本計画に参加する研究者を Close しないこと、

4月24日(月) 大気科学小委員会 (11)

- (i) 第3回 CAS (3月) の報告 (山本)
- (ii) 松本氏を小委員会委員に依頼 (南方計画と豪雨計画との共通部分を前3年で協力して行う)。

5月15日(月) 大気科学小委員会 (12)

- (i) 測地学審議会総会に対する準備 (建議原案の作整)
- (ii) 文部省科研費「地球大気開発計画」の使い方
 - a) 小委員会の会合費, 旅費

b) 第2回シンポジウム計画 (学会, 沢田委員その他)

c) 通信費, 印刷費

(iii) GARP 計画に新に参加*)

- a) 京都大学, 海空相互研究
- b) 気象研究所 地空相互研究
- c) 北海道大学 南方海域の観測 (雲の観測)

5月17日(水) GARP 報告 (島山理事長, 岸保理事) 午後 熱帯気象のシンポジウム

*) 今後も新に参加希望者, 機関は山本委員長を通し, 小委員会に申し出ること。

なお, 本計画に協力して下さった他部 (5部, 6部) の人たちにも参加方をお願いする。